

四 宮 小 学 校

本を身近に感じられる学校図書館

今の学校図書館

本校の学校図書館は、全校単位で使い方の基本を統一している。多くの児童が、学校司書や各教員の協力の下、様々な本に触れることができている。また、学校支援本部・図書ボランティアの協力もあって掲示物等にも力を入れているため、読書に対して前向きな児童も多い。児童の興味・関心を維持できるよう、司書教諭と学校司書を中心とした教職員間の連携を密にし、本の選定・授業での活用の声掛けなど、環境整備に努めている。また、感染症対策として休み時間は基本的に図書館を開放していないため、週1時間は「図書館利用」の時間が確保できるよう担任に働きかけている。

学校図書館の運営

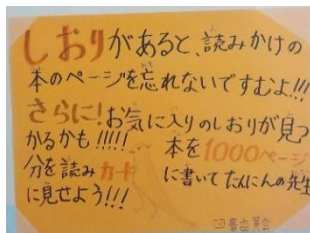
教育課程に位置付けた学校図書館の利用を計画的に実施する。

読書センターとして、魅力ある読書指導・環境整備に努める。

学習・情報センターとして、学びを支える資料の収集・提供に努め、学校図書館を活用した授業の推進を図る。

1年間の主な活動

- ・柿木図書館と連携したおはなし会の実施(冬)
- ・年間を通した読書記録の取り組み
- ・年2回の読書旬間の実施(秋・冬)



特色ある取組

・読書集会の実施

校内アンケートに基づいたおすすめの本紹介(低・中・高学年向け)、本のクイズ、旬間中の読書目標達成者へのしおりの贈呈呼び掛けなどを行っている。

また、「図書みくじ」を読書旬間に配布し、幅広いジャンルの本に関心を向けられるような働き掛けをしている。

・貸出可能冊数の設定

読書旬間中や長期休業前には、貸出冊数を2冊から3冊に増やしている。また、夏休み前は禁帯出本も一人一冊のみ貸出可としているため、調べ学習で活用する資料や、普段は持ち帰ることのできない本を借りたりすることができる。

・図書ボランティアさんとの連携

読書旬間のときに贈呈するしおりを学校支援本部の図書ボランティアさんに作成していただき、学校と保護者で協力して読書への意欲を高めている。



・多読書賞の表彰

年間を通した読書記録を活用し、「学年×1000ページ以上」を記録した児童には、年度末のテレビ朝会で表彰し、各教室で賞状を渡している。

これからの学校図書館

総合的な学習の時間等で、図書館の資料を活用する学年が増えてきた。今後は必要な資料を児童自らが選定できるよう働きかけていきたい。